

ARCLE について

ARCLE の理念

これからの英語教育のグランドデザイン (ECF=English Curriculum Framework) に基づいて、幼児から成人まで一貫した英語教育を実現するための実証的な言語教育研究を推進し、発信していく。

❶	ARCLE の概要, 研究員一覧, 2007年度活動報告	134
❷	研究紀要執筆要領	136

1. ARCLE の概要

正式名称 Action Research Center for Language Education
 (ARCLE / アークル)
事務局 (株)ベネッセコーポレーション内

2. 研究員一覧(五十音順, 敬称略)

研究理事 アレン玉井光江(千葉大学教授)
 金森強(松山大学教授)
 田中茂範(慶應義塾大学教授)
 根岸雅史(東京外国語大学教授)
 吉田研作(上智大学教授)
研究員 長沼君主(東京外国語大学講師)
 杓澤糸(ベネッセコーポレーション)
 初海真理子(ベネッセコーポレーション)
 福本優美子(ベネッセコーポレーション)
 森下みゆき(ベネッセコーポレーション)
 吉池陽子(ベネッセコーポレーション)

3. 2007 年度活動報告 ※所属は発表当時のもの

学会発表 全国英語教育学会全国大会(2007 年8月)
 「高校生 Can-do statements の精緻化の方向性～ライティング能力
 (E-mail)調査の事例を中心に」
 工藤洋路(日本女子大学附属高等学校)
 根岸雅史(東京外国語大学)
 井上千尋(東京外国語大学大学院)
 吉池陽子(ベネッセコーポレーション)

小学校英語教育学会全国大会(2007 年8月)
 「小学校英語実施における課題と展望:『小学校英語に関する基本
 調査』教員調査と保護者調査の結果から」
 吉田研作(上智大学)
 直山木綿子(京都市教育委員会)
 杓澤糸(ベネッセコーポレーション)
 福本優美子(ベネッセコーポレーション)

- シンポジウム・
講演・研修等
- 上智大学応用言語学シンポジウム(2007 年 11 月)＊共催
吉田研作(上智大学)
田中茂範(慶應義塾大学)
アレン玉井光江(千葉大学)
金森強(松山大学)
長沼君主(東京外国語大学)
- 福岡県立香住丘高等学校教職員研修
「2006 年度海外ジャーナル調査の結果報告(海外短期留学の効果検証のご報告として)」
吉池陽子(ベネッセコーポレーション)
- 関西大学英語教育連環センター第 3 回フォーラム
「新課程を見据えた指導法を探る」～SELHi 指定終了校の取り組みと
中高接続の観点から～
沓澤糸(ベネッセコーポレーション)
- 掲載実績
- 「小学校での英語学習の効果と日本の英語教育の課題とは」
(『週刊教育資料』2007 年 8 月 20 日号 No.993/日本教育新聞社)
沓澤糸(ベネッセコーポレーション)

1. 形式

- (1) 基本は日本語とする (Abstract, Keywords は英語)
- (2) 横書きで, ワードプロ・パソコンの Word で作成
- (3) B5版, 余白は, 上下 20mm, 左右 25mm
1p あたり 39 行, 1行あたり, 日本語は概ね 40 字, 英語は 80 字
10~15 ページ程度 (注・参考文献・グラフ・図表・数表等を含めて)
- (4) グラフ・図表・数表は, 原稿本文中に入れ込む

2. 構成

* ① ⇒ ⑦ の順

- ① 題目 (日・英)
原稿の1ページ目の最初に, 日本語と英語の順
- ② 氏名 (日・英)
日本語表記の下に英語表記
- ③ 所属機関 (日・英)
日本語表記の下に英語表記をイタリック体で表記
- ④ Abstract (英)
200 words 程度で, 英語で Abstract を入れる
- ⑤ Keywords (英)
Abstract の次に1行あけて, 論文のキーワードを3~5つ程度, 英語で入れる
- ⑥ 本文
・Keywords の次に1行あけて, 本文を書き始める
・小見出しには通し番号をつけ, ゴシック体を用い, 前後に1行の空白を設ける
・和文の場合, 句読点は「, 。」, カギ括弧は「」を使用
- ⑦ 注, 参考文献等
Publication Manual of the American Psychological Association
(American Psychological Association, 2001)などに準拠